

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 静岡市国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

定住外国人が地域で孤立することなく生活していくため、必要な日本語能力を習得できるようにボランティア日本語指導者を育成し、多文化共生社会の基盤づくりに資する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月20日	静岡市国際交流協会会議室	水野かほる 田辺典利子 斎藤晴美 宮本記世乃	平成23年度文化庁委託「日本語の教え方入門講座」の内容の検討	講師の顔合わせを行うとともに、事前に作成したプログラムの内容を提示し、意見を伺った。

3 養成講座の内容について

- (1) 講座名：平成23年度日本語の教え方入門講座
- (2) 目標：静岡市在住外国人に、基礎レベルの日本語を指導できるスキルを養う。
- (3) 受講者の総数： 23人
(出身・国籍別内訳：日本21人 中国1人 ブラジル1人)
- (4) 開催時間数(回数)： 37.5時間 (13回)
- (5) 参加対象者の要件：ボランティアとして日本語指導を希望する市民
- (6) 受講者の募集方法：
静岡市広報紙、静岡市国際交流協会情報誌、静岡市国際交流協会HP、(財)静岡県国際交流協会情報誌、(財)静岡県国際交流協会HP
- (7) 会場：静岡市国際交流会会議室
- (8) 使用した教材・リソース：日本語の教え方ABC、みんなの日本語初級Ⅰ

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
9月12日(月) 13:30～16:30	参加者の自己紹介を行った後、5人1組のグループに分かれて、日本語ボランティアに必要な資質や役割を話し合った。	静岡市国際交流協会主任主事 宮本記世乃	22名
9月26日(月) 13:30～16:30	「外国人との共生のために、今なにをすべきか?～ 少子高齢化・人口減少社会を迎えた日本と外国人の受入れ」というテーマで多文化共生の現状についての講演の後、グループに分かれて、外国人が日本で生活していく上でどのような壁に直面しているのか、また、多文化共生に向けて、何ができるか・何をすべきかについてディスカッションを行った。	(財)名古屋国際センター主査 加藤理絵	23名
10月17日(月) 13:30～16:30	外国語としての日本語（日本人の気づかない、気づきにくい）日本語の特徴の確認）についての講義	静岡県立大学准教授 水野かほる	22名
10月31日(月) 13:30～16:30	外国語としての日本語（日本語教育と国語教育、英語教育の違い）、日本語学習者の誤用例、日本語教科書を使った動詞の呼称についての講義	静岡県立大学准教授 水野かほる	21名
11月14日(月) 13:30～16:30	日本語文法を学ぶ① テキスト「日本語の教え方ABC」を使って、直接教授法で教える上での注意点などを学んだ。	静岡市国際交流協会主催日本語講座 講師 田辺典利子	20名
11月28日(月) 13:30～16:30	日本語文法を学ぶ② テキスト「日本語の教え方ABC」を使って、い形容詞、な形容詞の違いと教え方、動詞の「て形」の作り方などを学んだ。	静岡市国際交流協会主催日本語講座 講師 田辺典利子	17名

12月12日(月) 13:30～16:30	日本語文法を学ぶ③ 外国人の関心を引き出すような効果的な導入の仕方、絵カードの選び方、動詞のグループ分けなどを学んだ。	静岡市国際交流協会主催日本語講座 講師 田辺典利子	18名
12月26日(月) 13:30～16:30	日本語文法を学ぶ④ テキスト「日本語の教え方ABC」を使って、欲求・願望、比較、授受などの表現を学んだ。	静岡市国際交流協会主催日本語講座 講師 田辺典利子	16名
1月16日(月) 13:30～16:30	基本文型を教えるための文型整理 (動詞文、形容詞文、存在・助数詞、欲求・願望、比較、授受、動詞の「て形」「ない形」「辞書形」「た形」「普通形」)を行った。	日本語ボランティア「ひらがな」事務局 斎藤晴美	20名
1月30日(月) 13:30～16:30	教案の作成の仕方、日本語授業の流れ、ボランティアとして日本語を教える上での留意点など、日本語実習を行うための準備を行った。	日本語ボランティア「ひらがな」事務局 斎藤晴美	20名
2月13日(月) 13:30～16:30	指導する文型・語彙の整理、語彙や文型の導入方法、文型の練習文、用意する絵や物の確認、複数で授業を行う場合の留意点など、日本語指導実習のための具体的作業を行った。	日本語ボランティア「ひらがな」事務局 斎藤晴美	18名
2月27日(月) 13:30～16:30	5人の学習者へ日本語指導実習を行った。	日本語ボランティア「ひらがな」事務局 斎藤晴美	18名
3月12日(月) 13:30～15:00	全プログラムの振り返り、アンケート・評価表記入、日本語ボランティアによる体験談、日本語ボランティアの登録についての説明し、10回以上出席した受講者19名に修了証を授与した。	静岡市国際交流協会主任主事 宮本記世乃	19名

(10) 講座の評価

①受講生に対するアンケート

1. 当講座は受講生各自の受講目的を満たすものであったか(5段階評価)

回答)5:(3人) 4:(10人) 3:(4人) 不明:(2人)

理由)

- ・内容は大変よく、短期間で日本語講師を養成するには、必要なことは全て盛り込まれていたと思う。
- ・日本語ボランティアの心構え、日本語の知識等多岐にわたった講座だった。
- ・日本語の文法についてもう少し詳しく勉強したかった。
- ・ゼロからのスタートで模擬授業を行うところまで学べたことは非常に充実度が高い。
- ・グループごとに違う文型を勉強したので、どうやって教えたらいいかのかわからないところがあった。
- ・内容はとても充実して良かったが、理解するのに十分な時間がなかったのが残念。
- ・もう少し実践の場があってもよかったと思う。
- ・日本語の文法の授業では参考プリントも少なく、とても分かりにくかった。
- ・初めてのことでばかりで不安だったが、授業を受ける毎に少しずつ分かってきたことが嬉しい。

2. 講座の中で最も有益であったと思う項目(複数回答)

- ・日本語ボランティアに必要な資質や役割を考える (8人)
- ・講演「外国人との共生のために、今なにをすべきか?～少子高齢化・人口減少社会を迎えた日本語外国人の受入れ」 (3人)
- ・日本語の仕組み・特徴 (11人)
- ・日本語文法 (11人)
- ・日本語指導実習 (17人)
- ・日本語ボランティア体験談 (5人)

3. 今後追加したらよいと思う研修事項

- ・実際の授業の見学
- ・マンツーマンの実技指導
- ・日本語文法、日本語実習の時間を増やす
- ・日本語学習者である外国人とのディスカッション
- ・教材の作り方やテストを作る宿題

②実施主体からの研修内容結果評価

生活者である外国人に向き合うボランティア育成という視点から、日本語指導スキルだけでなく、人と気持ちよいコミュニケーションを取るための心構えや多文化共生についての現状なども織り交ぜて講座を組み立てた。提出されたアンケートから、全体的に受講生の満足度が

高く、一定の評価も得、当初の目的は達成されたと思う。ただ、日本語の文法についての講義について、受講生からの評価が分かれた。というのも、事前に講義の進め方についての講師との事前協議で、テキストの該当箇所を読みながら文法について学習を深め、さらに確認のためのテストを実施することと決まったが、実際には文法事項の説明ではなく、受講者自身による模擬授業形式になってしまい、受講生に混乱を生じさせてしまった。主催者が講師の力量を事前に十分確認できなかったことを反省点とし、今後はそのようなことがないように気をつけたい。

③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

(11) 事業の成果

①他事業との連携

日本語指導だけでなく、市内在住外国人との交流事業や姉妹都市等交流事業など協会の他の事業への参加や、災害時に設置予定の災害時多言語支援センターのボランティアとしての登録の呼びかけを行い、研修を実施する。

②研修後の人材活用

10 回以上講座に出席した受講者 19 名に対し、市内で活動する日本語指導ボランティアグループの紹介を行った。また、協会を拠点として活動するボランティア団体「日本語ボランティアひらがな」との橋渡しを行い、希望者には個別面談後、正式にボランティア登録を行ってもらい、日本語学習を希望する外国人への日本語指導を開始する予定である。

(12) 今後の課題

日本語文法について不安を覚える受講者が多いが、講座の中で文法を学ぶ時間は限られている。また、事前に机上の学習を重ねても十分ということはなく、外国人学習者を目の前にして指導をする中で、学びを深めていくのが現実であると思う。そういった点を踏まえ、受講生には、文法事項の学習は大切だが、それ以上に、ボランティアとして外国人に向き合う上での心構えや、日本語を学習し続ける上でのヒントなど、様々な方法を教えられるように講座を組み立てていくことが課題となる。